

②湯田ダムにおける地域活性化への取組

受賞機関

国土交通省 東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所
岩手県西和賀町

キーワード 湯田ダム、錦秋湖スプリング放流、錦秋湖大滝
ライトアップ、インフラツーリズム

全建賞審査委員会の評価ポイント

湯田ダムにおける地域活性化への取組。季節や社会的動向を踏まえたイベントや徹底した広報の工夫により、実際に周辺地域の宿泊者増加や物販販売額増加といった効果を上げている点や、ダムの魅力発信に努めインフラツーリズムの広報展開に加え、流木の対応等、広く展開している点、直営の低予算プロジェクトながら大きな効果成果を上げている点が評価された。

1. はじめに

湯田ダムは北上川流域の治水・利水を目的に、昭和39年に建設されてから早60年が経過しようとしている。現在湯田ダムは錦秋湖として、平成14年に建設された湯田貯砂ダム（錦秋湖大滝）と併せ、町最大の観光資源となっており、春は水没林、秋は紅葉等、町の豊かな自然景観との組み合わせにより、足を運んだ観光客を魅了するものである。その他にも湯田ダム管理支所、関係団体、町と連携して地域活性化イベントを実施している。

2. 事業の概要

湯田ダムのクレストゲート点検放流を観光イベントとした「錦秋湖スプリング放流」を実施した。通常はダム堤体上部通路からの見学に対し、地元温泉旅館宿泊者限定の放流を間近で見ることができるプランを設定し、町外及び県外からの観光客や『ダムマニア』に、しぶきをあげて流れ落ちる迫力のダム放流を堪能して頂いた。



豪快な湯田ダムスプリング放流

錦秋湖大滝では毎年7月上旬から9月末にかけて滝の裏側通路を一般開放し、水のカーテンと呼ばれる水流を楽しむことができる。また夜にはLEDライトを設置して17本の流れ落ちる滝を照射し、幻想的な非日常的空间を生み出し、町の貴重な夜景観光資源として誘客に繋げている。

3. 事業の成果

湯田ダムにおけるクレストゲート点検放流を観光イベントとした「錦秋湖スプリング放流」は、開催期間が点検期間である数日間と極めて短期間であったにも関わらず、令和元年度には町の人口の半分以上に当たる3,000人を超す来場者があった。来場者には湯田ダムカードを交付し、町内の物販施設や温泉施設で割引サービスを受けることができる等、経済活性化に繋げることができた。同年には、「ジャパン・ツーリズム・アワード」で入賞した。

錦秋湖大滝は日中、普段は通ることのできない滝の裏側を通行すると冷涼な空間を楽しむことができる。また、ライトアップはレインボーカラーのグラデーションで、SNSの拡散による来場者も増加し、令和2年にダム施設として全国初の「日本夜景遺産(ライトアップ夜景遺産)」に認定された。その後、令和3年には東京オリンピック・パラリンピックイメージカラーを、令和4年には夏や秋のイメージカラーによるグラデーションを実施する等、季節やイベント時限定の照明設定をすることにより、町への誘客に繋がった。



幻想的な錦秋湖大滝ライトアップ

4. おわりに

ダム施設という巨大インフラが町の観光資源に変換されることは想像しなかったが、湯田ダムの迫力ある放流や幻想的な錦秋湖大滝ライトアップ等の『非日常的空间』というキーワードが観光誘客に繋がったと考えられる。

今後、更に関係機関との連携を進め、現在進めている「西和賀町かわまちづくり」の事業推進に加え、錦秋湖を活用した体験型コンテンツの創出や事業者の育成支援を通じ、インフラツーリズムの取組を推進していきたい。